福島第一原子力発電所事故後、島根大学の被ばく医療に対する取り組みについて（橋口尚幸、Mook 6 放射線災害と医療II、医療科学社 2012、p.85-91）

2018年2月9日、災害医学抄読会 http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/

・福島第一原発事故以前の取り組み

平成 17 年に「島根県緊急被ばく医療ネットワーク会議」を発足させ、それによって島根県内の初期、二次被ばく医療機関を指定したり、あるいは被ばく患者発生時のフロー図を作成するという取り組みを行っていた。被ばく医療に関する人材育成に関しては、放射線医学総合研究所、原子力安全研究協会主催の講習会の受講のみを義務づけていた。

・島根県の現状

島根原発は全国唯一県庁所在地にある原発であり、1 号機から 3 号機まで存在する。島根県は、東京、大阪のように大きな病院がそれほどたくさんあるわけではなく、主要機関として周辺に 5 つの病院がある程度である。また、緊急被ばくネットワーク会議で平時体制ができており、初期被ばく医療機関は松江赤十字病院、松江市立病院、二次被ばく機関は県立中央病院、三次被ばく機関は広島大学病院となっている。今後島根大学病院が二次被ばく医療機関として認可されるかもしれない。もう一つの大きな問題点は、島根県で大きな原子力災害が発生した場合、避難所をどこにするかという問題も存在する。

・今回の福島原発事故でわかったこと

今回の福島原発事故でわかったことは、発災直後から 6 ヶ月の医療支援を行い、被ばく医療には長期の支援が必要である。また、住民や作業者の健康管理が重要であり、そのためには産業医との連携が必要である。

・被ばく医療に対する人材育成

① 医学科 4 年生に対して

目標としては、被ばく医療に特有な言葉を理解してもらうこと、あるいは放射線を正しく怖がるために被ばく医療の本質を理解することを掲げ、大阪大学の教授に来ていただき緊急被ばく授業を行った。

② 研修医に対して

目標としては、被ばく医療の知識を具体化したり、一般住民に対する被ばく医療を実践できるということ、また、「よろず健康相談」に参加して、現在の福島の被災者の方の悩みや問題点を理解することを掲げ、福島県市町村住民健診に伴う健康相談事業（よろず

健康相談事業）に参加してもらう。

③ よろず健康相談事業について

内容は放射線に関するものから慢性疾患までを対象とした健康相談を実施するということである。この事業に参加してもらうことにより、災害慢性期の実状を理解してもらうこと、リスクコミュニケーションの実際を理解してもらえること、さらにいろいろな業種の方と連携ができること、そして災害の復興期における様々な施策や取り組みを理解するという効果を期待している。

④ 卒後５年目以降の医師・看護師・診療放射線技師に対して

被ばく医療に対してリーダーとして行動できること、一般住民へ正しい放射線知識を発信できることを目標とし、放射線総合医学研究所、原子力安全研究会などのセミナーに参加してもらう。

・原子力発電所設置県の大学病院の役割

医療人育成機関として、学生の時から被ばく医療に対する教育を行うこと、また被ばく医療の知識は医療人として基本的な素養の一つだということ、さらに定期的に開催される講習会等に派遣し知識の更新と刺激を受け続ける環境を整えることが必要である。